



東地中海地域ニュース

レバノン：治安部隊とファタハ・イスラームの交戦 (5月22日付現地各紙)

1. 戦闘の様子

- (1) 5月20日未明に始まった北レバノン近郊のパレスチナ難民キャンプでのレバノン治安部隊とファタハ・イスラームとの交戦は21日も継続し、ファタハ・イスラームはキャンプ内からレバノン国軍に対し、小銃、機関銃、対戦車ミサイル等で砲撃を行い、これに対し国軍は反撃して、断続的に銃撃戦が続いた。
又、国軍は、キャンプ周辺の丘陵を占拠して装甲車を配置し、海上にも2隻の小型艦艇を配備してキャンプに対する包囲を固めた。
- (2) 赤十字国際委員会の仲介により午後4時から6時まで、死傷者の移送と飲料水等の搬入のための人道的停戦が合意された。しかしファタハ・イスラーム側がキャンプ内に入ろうとする救急車を銃撃したことで、銃撃戦が再開した。
- (3) 砲撃は21日深夜まで続き、キャンプ内の40以上の建物が破壊された。20日以降の交戦で死者は30名、負傷者は90名を越えたと見られる。

2. レバノン政府の動き

- (1) 21日午前、セニオラ首相はザキ在レバノン・パレスチナ代表やハムダーン・ハマス代表等からなるパレスチナ諸派代表団と会談し、ファタハ・イスラームを壊滅するためレバノン政府への支持を要請した。これに対しパレスチナ諸派代表団は、ファタハ・イスラームがパレスチナ難民とは関係のないことを確認し、レバノン政府と国軍に協力する旨を伝える一方、ナフル・エル・バーリド・パレスチナ難民キャンプに住むパレスチナ難民の困窮を軽減するように求めた。又、セニオラ首相は同日午後、マシュアル・ハマス政治局長とも電話で会談した。
- (2) 21日午後、セニオラ首相は閣議を開催して、下記を決定した。
 - (イ) ファタハ・イスラームは壊滅する必要がある。
 - (ロ) レバノン国軍と治安部隊への賞賛を新たにし、戦死者や犠牲者に哀悼を捧げる。政府は、国軍と国家警察軍の必要物資を満たすことを確認する。
 - (ハ) セニオラ首相に、問題解決に向けた支援を得るために、外国との連絡を委ねる。
- (二) レバノン国民に対し、レバノン国軍と国家警察軍への支援を呼び掛ける。
- (ホ) レバノン政府はパレスチナ難民に対し、難民の安全、尊厳を尊重することを確認する。パレスチナ難民がレバノン国家と国軍の尊厳を守るため、又レバノン国民とパレスチナ難民の安全を同時に確保するため、共に協力することを望む。